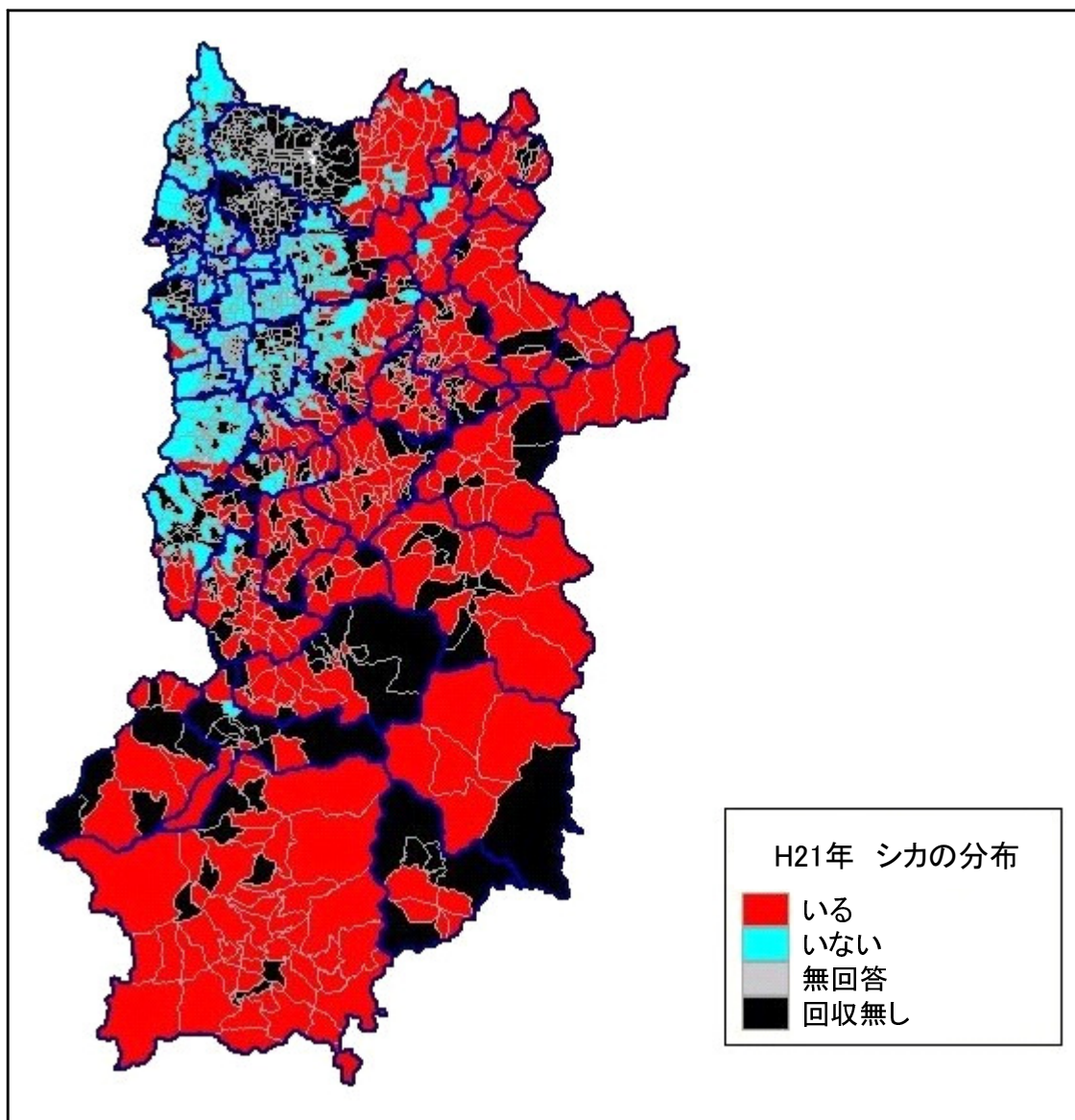
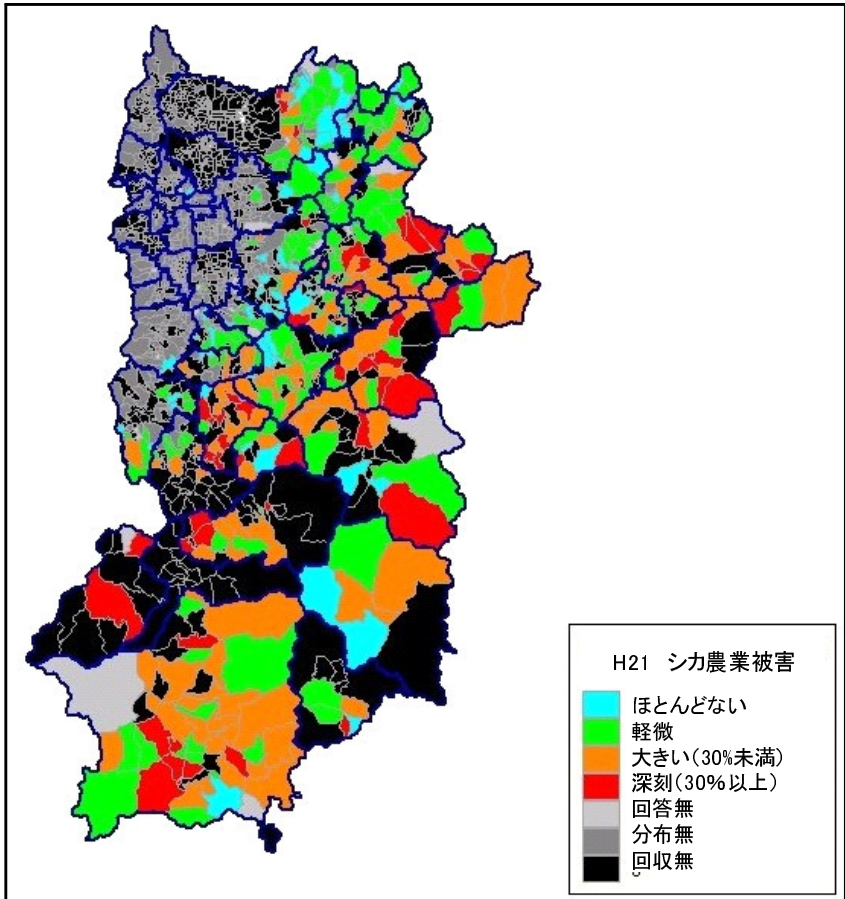


6、ニホンジカ農林家集落アンケート調査(獣害アンケート調査)



凡例 図中 青線 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界
なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

図は平成21年度の農林業集落アンケート調査による、シカの分布である。
農業集落、林業集落の両方またはいずれかでシカがいると回答があった場合に「いる」としている。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。
県北東部から県東部・南部にかけて広い範囲より、シカが分布しているとの回答があった。

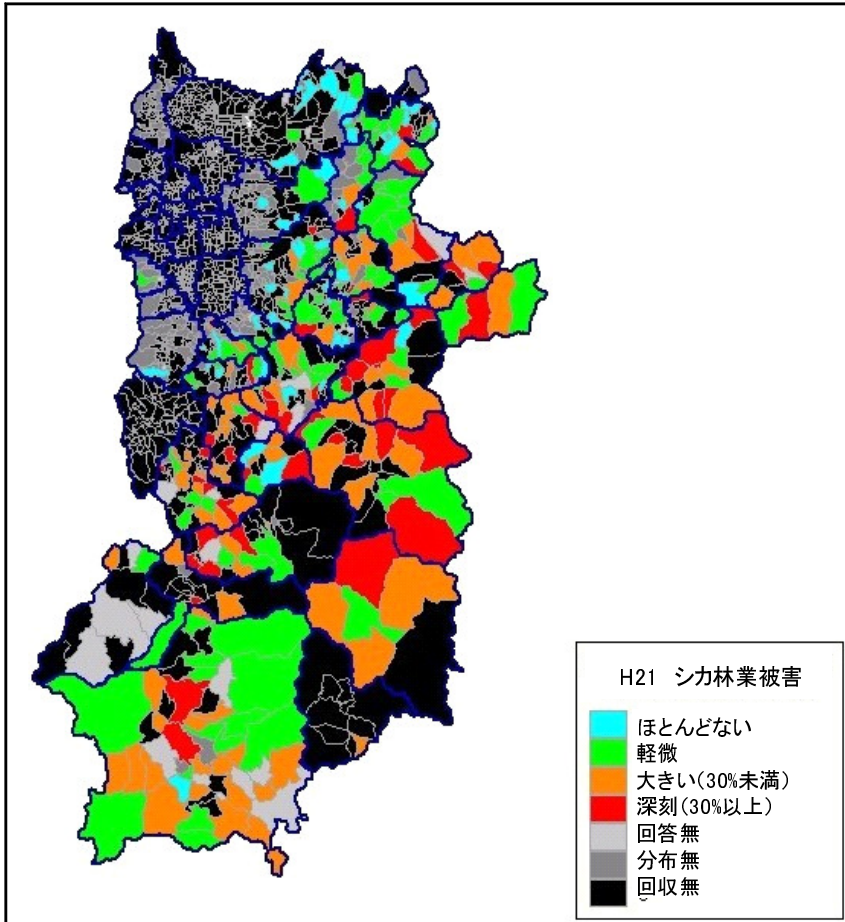


OH21 シカ農業被害

左図は平成21年度の農業集落アンケートによる、農業被害の大きさの意識調査の結果である。

シカが分布しており、かつ回答のあった361集落の内訳は下記の通りである。

ほとんど無い	60集落(16.6%)
軽微	147集落(40.7%)
大きい	104集落(28.8%)
深刻	50集落(13.9%)
計361集落	



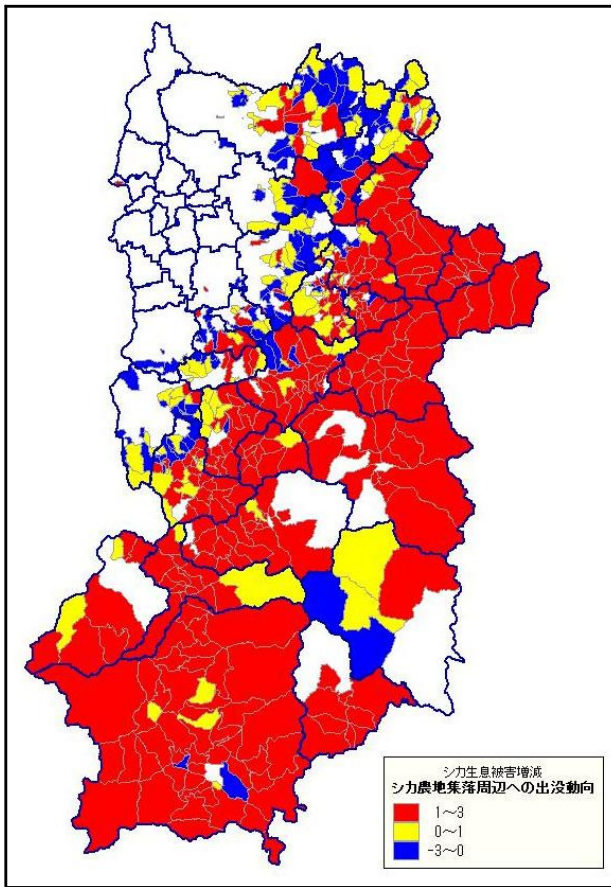
OH21 シカ林業被害

右図は平成21年度の林業集落アンケートによる、林業被害の大きさの意識調査の結果である。

シカが分布しており、かつ回答のあった282集落の内訳は下記の通りである。

ほとんど無い	51集落(18.1%)
軽微	103集落(36.5%)
大きい	83集落(29.4%)
深刻	45集落(16.0%)
計282集落	

農・林業アンケートによるシカの被害意識の増減



○シカの農地集落周辺への出没動向

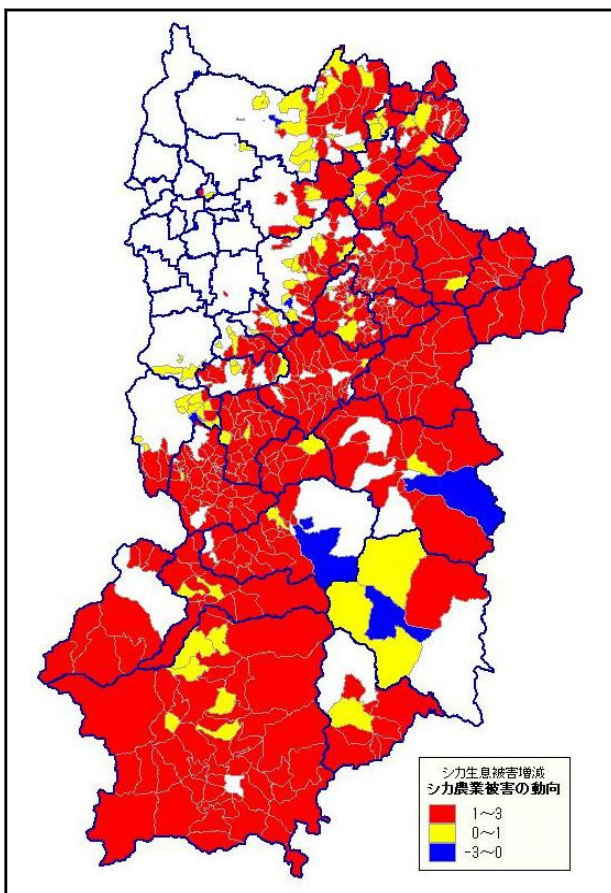
左図はシカの農地集落周辺への出没の3年間の動向である。

毎年集落毎に農地・集落周辺へのシカの出没を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ている。そして、1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの回答を、「よく見る」を+1、「たまに見る」を±0、「あまり見ない」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、プラスになる場合(つまりよく見るが多い場合)は赤色で、0になる場合(つまりたまに見るになる場合)は黄色で、マイナスになる場合(つまりあまり見ないが多い場合)は青色で各集落を色つけた。3年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した3年間、シカがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

シカの農地集落周辺への出没は、県北部奈良市の一部、県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡にかけて多くなっている。近年分布が拡大した奈良盆地周辺地域では出没はまだ少ないようである。なお、回答を得た集落のうち、約55%がよく見られるようになっていた。

赤	よく見る	307集落 (55.4%)
黄	たまに見る	130集落 (23.5%)
青	あまり見ない	117集落 (21.1%)
回答数		554集落



○シカ農業被害の動向

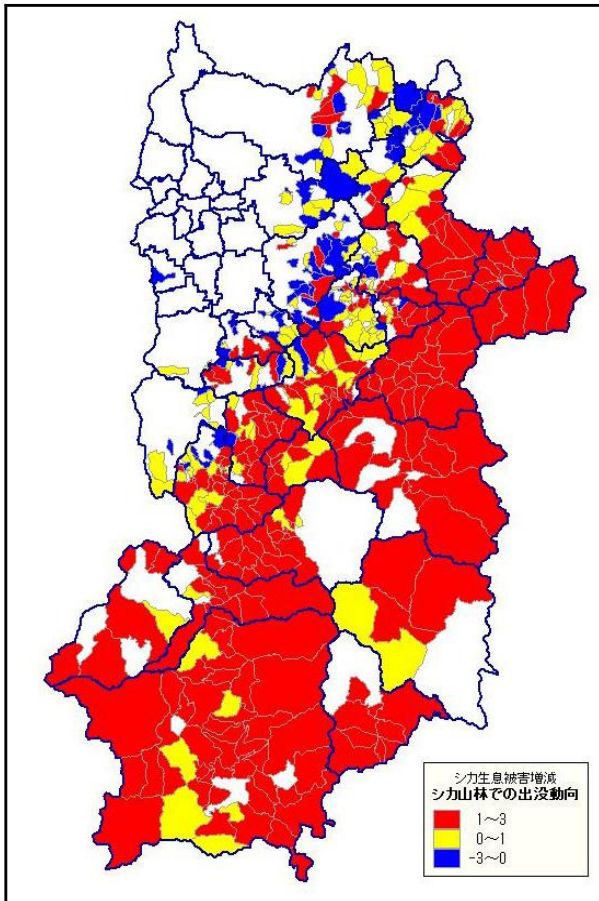
左図はシカによる農業被害の意識の3年間の動向である。

毎年集落毎に農業被害を前年度より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ている。そして、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、プラスになる場合(つまり増えている場合)は赤色で、0になる場合(つまり変わらない場合)は黄色で、マイナスになる場合(つまり減った場合)は青色で各集落を色つけた。3年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した3年間、シカがいない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

シカによる農業被害の意識は、ごく一部では減っているものの、県北東部や宇陀地域から県南部の吉野郡にかけて増えている。また、回答を得た集落のうち80%以上が増えたとなっていた。

赤	増えた	437集落 (81.2%)
黄	かわらない	95集落 (17.7%)
青	減った	6集落 (1.1%)
回答数		538集落



○シカの山林・奥地森林での出没動向

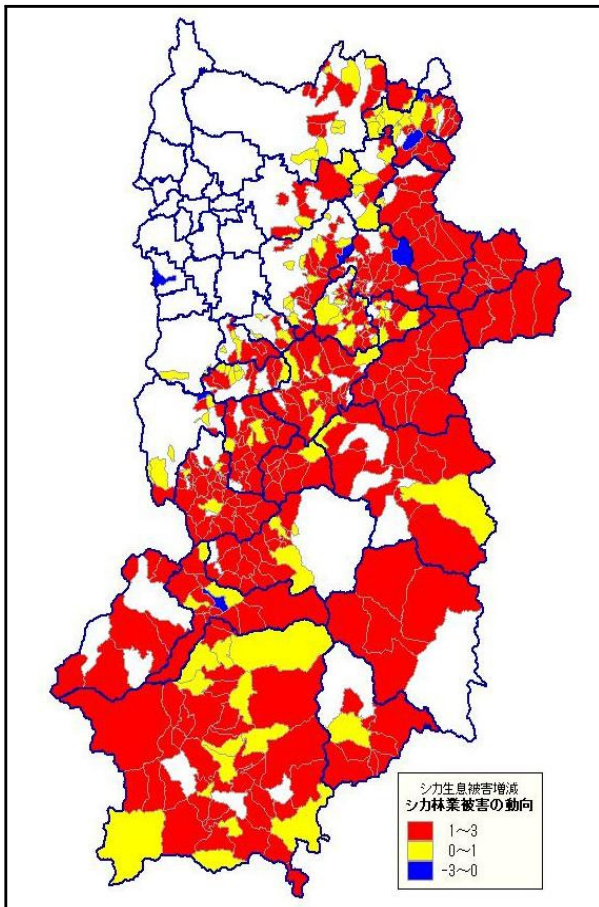
左図はシカの山林・奥地森林での出没の3年間の動向である。

毎年集落毎に山林・奥地森林でのシカの出没を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ている。そして、1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの回答を、「よく見る」を+1、「たまに見る」を±0、「あまり見ない」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、プラスになる場合(つまりよく見るが多い場合)は赤色で、0になる場合(つまりたまに見るになる場合)は黄色で、マイナスになる場合(つまりあまり見ないが多い場合)は青色で各集落を色つけた。3年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した3年間、シカがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

シカの山林・奥地森林での出没は、農地集落周辺と同様に県北部奈良市の一部、県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡にかけて多くなっている。なお、回答を得た集落のうち約57%が増加傾向にあった。

赤	よく見る	263集落 (57.5%)
黄	たまに見る	122集落 (26.7%)
青	あまり見ない	72集落 (15.8%)
		全457集落



○シカ林業被害の動向

右図はシカによる林業被害の意識の3年間の動向である。

毎年集落毎に林業被害を前年度より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ている。そして、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、プラスになる場合(つまり増えている場合)は赤色で、0になる場合(つまり変わらない場合)は黄色で、マイナスになる場合(つまり減った場合)は青色で各集落を色つけた。3年間で1度でも回答があった場合を集計している。

空白は調査した3年間、シカがいない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

シカによる林業被害の意識は、概ね農業被害と同じであり、ごく一部では減っているものの、県北東部や県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡にかけて殆どの地域では増えていた。回答を得た集落のうち、約75%が増えたとなっていた。

赤	増えた	343集落 (74.7%)
黄	変わらない	109集落 (23.7%)
青	減った	7集落 (1.5%)
		全459集落